

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	3271100590
法人名	医療法人 同仁会
事業所名	グループホーム あい
訪問調査日	平成 20 年 11 月 10 日
評価確定日	平成 20 年 12 月 22 日
評価機関名	株式会社 ワールド測量設計

○項目番号について

外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 11月 20日

【評価実施概要】

事業所番号	3271100590
法人名	医療法人 同仁会
事業所名	グループホーム あい
所在地	島根県松江市宍道町白石130-6 (電話) 0852-66-3601

評価機関名	株式会社 ワールド測量設計		
所在地	出雲市荻杼町274-2		
訪問調査日	平成20年11月10日	評価確定日	平成20年12月22日

【情報提供票より】(20年 10月 22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 3月 28日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	9 人, 非常勤 人, 常勤換算 8.5

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2階建ての 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費18,000円	
敷金	有(100,000 円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,650	円

(4) 利用者の概要(10月 22日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	6名	要介護2	2名		
要介護3	0名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	67歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	こなんホスピタル、深田歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

認知症ケアの拠点として地域に浸透している法人が、地域生活を継続して欲しいとの思いで開所したホームである。「生きる意味」「生きる意欲」を高め、より良い人生を過ごしていただけるように、また、全職員が「自分の親が入居してもよいと思えるような安心できる施設」を目指し、ケアに取り組んでいる。職員は、利用者の「生きる意欲」を引き出す為、利用者一人一人と接する時間を大切にしている。敷地内にある同法人施設や病院等との連携により、健康維持や、重度化に備えた医療連携体制が整っており、利用者、家族の大きな安心となっている。地域との交流が難しい立地条件(国道や線路を隔てている)ではあるが、ボランティアの訪問や子供達との交流など、少しずつ地域との関わりを深めてきている。

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果は全職員が周知し、見直しをしている。運営推進会議での報告や、利用者家族にも報告されている。地域との交流がホームの課題であり、地域の防災連携などについても、運営推進会議等で繰り返し話し合いを行っている。</p>
	②	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、計画作成担当者が中心となって、あらかじめまとめた評価を元に、全職員で意見を出しあった。全項目を職員一人一人が自分の事として振り返り、見直しや、職員の意識あわせをして頂きたい。</p>
重点項目	③	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>市担当職員、包括支援センター職員、地区の民生委員、家族代表等に毎回参加して頂き、定期的に行われている。2ヶ月に1回の開催予定にしているが、現状は3ヶ月毎に開かれており、計画的な開催が望まれる。災害時の協力やボランティアの紹介などの意見を頂いている。今後さらに、サービス向上に向けた活発な意見交換が出来るよう、具体的な事例発表や事前に問題提議しておく等、積極的な進捗を期待する。</p>
重点項目	④	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>定期的な、ホーム便りと一緒に、個別の近況便りや出納報告等を送付している。個別の近況便りは、わかりやすいように「生活」「健康状態」「その他」の欄に分けて、居室担当者が記載している。利用者からの電話のとりつきや、折を見て外出や外泊を勧めるなど、家族の理解や協力を深めるように努めている。面会時や運営推進会議に参加して頂き、ご意見を頂いているが、今後、家族を含めた食事会なども検討されている。</p>
重点項目	⑤	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>国道や線路を隔て、民家と離れている為に、地域との関わりが難しい環境にあるが、地域の祭りへの参加、幼稚園・中学校との交流や、民生委員さんからのボランティアの紹介等、少しずつ地域との関わりを深めている。パンフレットや、利用者家族向けに発行されているホームだよりをプライバシーを配慮したうえで地域にも配布等を行い、さらに理解や協力を深めて頂きたい。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所当初からの理念が掲げられ、「生きる意味」「生きる意欲」を高め、より良い人生を過ごしていただけるように、また、全職員が「自分の親が入居してもよいと思えるような安心できる施設」を目指し、ケアに取り組んでいる。	○	理念の内容は素晴らしいが、表現が難しいと思われる。事業所が大切にしていることを、高齢者にも解るように、職員自身の言葉にして頂きたい。又、地域密着型として、地域との関係性の継続や柔軟な支援を謳った内容に含まれる事が望ましい。家族や地域に、浸透しやすい表現を検討して頂きたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、事業所内に自然な形で掲示されており、朝礼で読み上げ、職員に日々意識づけされている。又、パンフレットやホームだよりに掲載するなど啓発にも努めている。職員は利用者の「生きる意欲」を引き出す為、利用者一人一人と接する時間を大切にしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	国道や線路を隔て、民家と離れている為に、地域との関わりが難しい環境にあるが、地域の祭りへの参加、幼稚園・中学校との交流や、民生委員さんからのボランティアの紹介等、少しずつ地域との関わりを深めている。	○	パンフレットや、利用者家族向けに発行されているホームだよりをプライバシーを配慮したうえで地域にも配布等を行い、さらに理解や協力を深めて頂きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果は全職員が周知し、見直しを行っている。運営推進会議での報告や、利用者家族にも報告されている。今回の自己評価は、計画作成担当者が中心となって、あらかじめまとめた評価を元に、全職員で意見を出しあった。	○	全項目を職員一人一人が自分の事として振り返り、見直しや、職員の意識あわせをして頂きたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市担当職員、包括支援センター職員、地区の民生委員、家族代表等に毎回参加して頂き、定期的に行われている。2ヶ月に1回の開催予定にしているが、現状は3ヶ月毎に開かれている。災害時の協力やボランティアの紹介などの意見を頂いている。	○	計画的な開催が望まれる。また、今後さらに、サービス向上に向けた活発な意見交換が出来るよう、具体的な事例発表や事前に問題提議しておく等、積極的な進行を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市内のGH部会(ブロック会)や地区の保健福祉連絡会(ワーキングスタッフ会)が、それぞれ年に3、4回ずつ開催されており、サービス向上に向け意見を出し合い、行政との情報提供、共有の場となっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に、ホーム便りと一緒に、個別の近況便りや出納報告等を送付している。個別の近況便りは、わかりやすいように「生活」「健康状態」「その他」の欄に分けて、居室担当者が記載している。利用者からの電話のとりつぎや、折をみて外出や外泊を勧めるなど、家族の理解や協力を深めるように努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1ユニットで、一人暮らしの方も多く、家族会はないが、面会時や運営推進会議に参加して頂き、ご意見を頂いている。今後、家族を含めた食事会なども検討されている。		食事会など家族間交流をもつことで、さらに意見が出やすくなると思われます。実践される事を期待します。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の事情による法人内の異動が多い。これまで、利用者には大きなダメージはないが、馴染みの職員が居なくなり、寂しさを口にする利用者もある。	○	出産など止むを得ない異動ではあるが、馴染みの関係が大事である事を理解して頂き、法人内でも異動を最小限におさえる体制づくりを期待する。やむを得ず職員が交代する場合は、利用者や家族にきちんと伝え、両者の気持ちに配慮した引継ぎをお願いしたい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人での各委員会、外部研修、法人内研修、内部研修が充実しており、資格取得や研修への参加を積極的に支援している。年2回の自己評価をもとに個人面談を行い上司からのアドバイスを受ける機会がある。全職員が常勤であり、交替で夜勤を経験し、職員の質の高さを感じられる。年2回の健康診断や休憩時間の確保など職員の健康にも配慮されている。	○	ヒヤリハットは、日々の些細な出来事も記録に残されており感心した。出来事は全職員で共有されている。繰り返される問題は具体的に対策をたて実践していかれる事を期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のGH部会(ブロック会)や地区の保健福祉連絡会(ワーキングスタッフ会)、研修会等で、他の事業所と情報交換を行っている。	○	今後は他GHとの交換研修なども視野に入れ、職員の励みとなる交流をもたれることを期待したい。特に、同じように医療法人が運営するGHとの情報交換は、地域との関わりなど学びあう事が多いと考える。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	敷地内にある同法人の病院や介護老人保健施設から移行して入所される方が多い。入所前には自宅訪問をしたり、ホームの見学をして頂いて説明を行い、安心して入所して頂けるよう、段階的な支援を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	若い職員が多いこともあり、利用者の言葉からは、孫に話しかけるような気遣いやいたわりが感じられる。オヤツ作りなどは利用者が主導されたり、盛り付けや片付け、洗濯たたみ等積極的に手伝って下さっている。職員からは自然に感謝の言葉が出ていた。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時に希望を聞いて、一緒に話し合える方もある。傍に寄り添い目を配る事で本人の嗜好や意向を知る努力をしている。思いの把握が困難な方には、具体的に選択肢を与え本人に選んで頂くようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画につながるアセスメントや実践経過記録を工夫している。計画作成担当者や居室担当者を中心に、利用者、家族の意向を確認し、カンファレンスを開いて介護計画を作成している。ミーティングやケアカンファレンス、モニタリングやヒヤリ・ハット等の記録が1冊に交ざっていたのを、分けてファイリングするようになり、見易くなった。	○	連絡ノートや回覧物は、記入者がわかるようにして、責任を明確にし、見た者は確認のサインをして、見落としが無いようなシステムにして頂きたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回は定期的にケア会議を開いて計画の見直しを行っている。また、状況の変化があれば随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況によって、受診の付き添いや、外出支援を行っている。契約切れの方の自宅訪問を行ったり、相談にのっているケースもある。敷地内にある同法人施設と連携が整っており、ご希望で、訓練士に指示された、器具を使ってのパワーリハビリ(負荷をかけずに、普段使っていないところを動かす)を週2回行われる方もある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の殆どが、同法人の病院にかかっておられるが、入所前からのかかりつけ医に往診に来てもらっている方もある。皮膚科や歯科は専門病院を受診するが、家族が付き添えない時には、職員が同行している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療法人の運営であり、重度化に備えた医療連携体制が整っている。緊急時には直ちに医師や看護師に連絡し、訪問してもらえる。利用者、家族はもちろん、職員にも大きな安心となっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人内の接遇委員会が中心となり、研修を始め、職員への教育がされている。利用者の個室に入る際のノックや声かけなど日常の場面でも配慮が伺えた。個人情報に関する文章や同意書などもきちんと整備されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者が選択出来るように配慮し、利用者のペースを大事にした支援が行われている。1対1の将棋を楽しめる方や、行きつけの美容院や買い物に行ったり、電話をかけた、パソコンをされる方もある。食事の時は、テーブルにハサミとくず入れを置いておき、出来る方は自分で薬を出して飲まれるなど、出来るだけ残存能力を引き出すようなケアをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人内の介護老人保健施設から毎食届けられるシステムになっている。汁物だけは利用者と一緒にホームで作っている。湯飲みや箸は自分の物を使っている。手際よく準備や片付けをされる利用者もおられ、食事の支度が楽しみなものとなっている。オヤツは利用者と一緒に手作りする事が多く、季節を感じられるように工夫している。給食を止めて、外食に出かける日もある。	○	月に数回は、給食を止めて、利用者と一緒に買い出しや調理を楽しむ日を決め、利用者と職員が同じ物を食べるなど、家庭的な雰囲気を楽しまれることを期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望する時間に入浴している。殆どの人が毎日入浴されている。夕食後の入浴希望にも柔軟に対応している。入浴を拒まれる方には時間を変えたり、言い方を工夫して誘っている。気分を変えて温泉に誘う時もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	月1回は必ず車で外出している。出かけて美味しい物を食べる事が利用者にとって何よりの楽しみとなっている。季節感を味わって頂くこと、茶話会で、職員や利用者が浴衣姿になるなど思考を凝らしている。	○	遠出や散歩の他にも、花壇を作ったり、畑で自分達が作った野菜と一緒に調理するなど、身近に楽しみや、利用者の力を活かせる場を期待する。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	法人敷地内の散歩や近くのスーパーへの買い物、行きつけの美容院へ行くなど、個別の外出支援もしている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、鍵を掛ける事はない。不穏な利用者の方には、居室の暖簾の裾に優しい音色の鈴をつけ、居室からの出入りが、さりげなくわかるように工夫している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署への自動通報装置や各居室にスプリンクラーが設置され、年1回は消防用設備点検が行われている。老健と合同で年2回、利用者を含めた総合避難訓練を実施するなど防災対策がしっかりしている。	○	ホーム内の避難訓練だけでなく、実際に屋外の避難場所への訓練も実施され、あらたな問題を検討して頂きたい。運営推進会でも話題になっている、地域との協力体制が得られるよう、引き続き体制作りに取り組んで頂きたい。また、立地環境からも、不審者対応の訓練実施もお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立作成や嗜好調査は、法人の管理栄養士が行っている。以前は、便秘対策として薬を用いることが多かったが、現在は出来るだけ、飲み物の工夫や腹部マッサージで対応している。	○	今後も、便秘や不眠への対応策を飲食や生活面で工夫され、出来るだけ薬に頼らないよう努めて頂きたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	通所リハビリの2階がホームとなっており、会談とエレベーターの2箇所出口に、それぞれに履物を置いて利用している。廊下にはクッション性のある畳が敷かれ、スリッパは不要で転倒しにくい。フロアは広くて明るく、開放感がある。	○	居室の居心地が良い為か、各々が居室で過ごされる時間が多いようで、せっかく、共通の和室があるのに、機能していない。コタツを置くなど、憩いの場となるようなアイデアを期待する。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は明るく十分なスペースがある。ベッドとタンスは備え付けであるが、それ以外は利用者の馴染みの物や好みの家具や飾りつけをしている。仏壇を持ち込まれた方もある。9室中5室にトイレがあり、使用されているが、気になる臭いも無く、衛生的である。		